

2024年3月期 決算説明会

ウシオ電機株式会社
2024年5月14日

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

*売上高は外部顧客向け。営業利益率は、外部顧客向け売上高に対する比率を記載しております。



ウシオ電機、代表取締役社長の朝日です。

本日ウェブサイトにて開示した決算資料にもとづき、2024年3月期決算の内容をご説明します。

スライド2ページをご覧ください。

1. 2023年度 通期業績実績は **増収減益**^{*1}
2. 次期(2024年度)通期業績予想は **減収減益**^{*1}
3. 中期経営計画の再検証結果(新成長戦略)^{*2}

^{*1}: 前期比

^{*2}: ウェブサイト上は別資料として掲載

本日、主に記載の3つについてご説明します。

2023年度の業績は、前年同期比で増収減益となりました。
次期2024年度の通期業績予想は、減収減益となる見通しです。

また、中期経営計画については、再検証結果を踏まえ新たな成長戦略として、後程ご説明します。

まずは、2023年度の業績についてご説明します。
スライド4ページをご覧ください。

I. 2023年度 業績概要

II. 2024年度 通期業績予想

III. 参考資料

2023年度：業績サマリー

売上高
1,794億円

前年同期比：43億円増（+2.5%）

- 半導体及びFPDの市況悪化を受け、Industrial Process事業は減収
- 部材不足解消による映画館向けデジタルシネマプロジェクター(DCP)の販売増加及び円安効果で、Visual Imaging事業は増収

営業利益
129億円

前年同期比：28億円減（▲18.2%）

- 増収も、製品ミックス変化及び将来に向けた投資拡大で減益

親会社株主に帰属する
当期純利益
107億円

前年同期比：29億円減（▲21.3%）

- 【営業外収支】為替差益 5億円（2022年度：19億円）
- 【特別利益】投資有価証券売却益 70億円（2022年度：9億円）
- 【特別損失】減損損失 71億円（2022年度：5億円）

2023年度の業績サマリーです。
売上高は、2.5%増収の1,794億円となりました。

半導体及びフラットパネルディスプレイの市況悪化が継続し、インダストリアルプロセス事業で減収。
一方、部材不足の解消が進みデジタルシネマプロジェクターの販売が増加したビジュアルイメージング事業は、円安効果もあり増収となりました。

営業利益は、18.2%減益の129億円となりました。
増収も、製品ミックス変化や、将来に向けた開発費の投資拡大により減益となりました。

当期純利益は、投資有価証券売却益によるプラス効果はあるものの、減損損失等の計上により、21.3%減益の107億円となりました。

続いて、営業利益の増減内容を、ステップチャートでご説明します。
スライド6ページをご覧ください。

2023年度：財務ハイライト

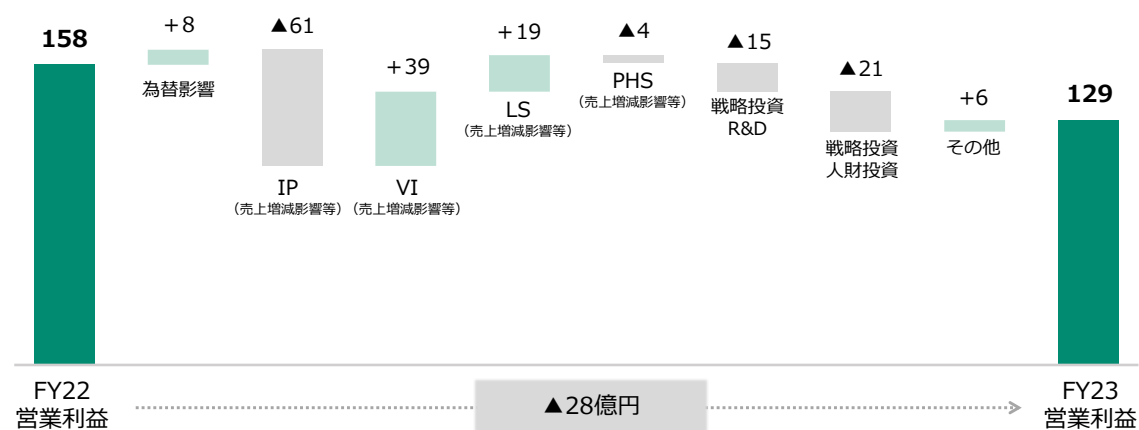


単位：億円	2022年度 実績	2023年度 実績	前年同期比		前回予想 (2024.2.9)	前回予想比	
			増減額	増減率		差異	達成率
売上高	1,750	1,794	+43	+2.5%	1,780	+14	100.8%
営業利益	158	129	▲28	▲18.2%	125	+4	103.8%
営業利益率	9.1%	7.2%	▲1.8P	-	7.0%	+0.2P	-
経常利益	201	160	▲40	▲20.1%	140	+20	114.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	136	107	▲29	▲21.3%	100	+7	107.9%
EPS（円）	115.69	97.22	▲18.47	▲16.0%	90.58	+6.64	107.3%
ROE	5.7%	4.5%	▲1.2P	-	4.3%	+0.2P	-
為替レート （円）	USD	135	+9	-	141	+3	-
	EUR	141	+15	-	153	+3	-

（参考）EBITDA（＝営業利益＋減価償却費及びのれん償却費）： 2023年度 214億円（2022年度 236億円）

2023年度：営業利益 増減分析(前年同期比)

単位：億円

IP = Industrial Process事業
VI = Visual Imaging事業LS = Life Science事業
PHS = Photonics Solution事業

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

6

28億円減益の主な内訳ですが、円安による為替影響で8億円の増益。

事業面では、売上増減により、インダストリアルプロセス事業が減益も、ビジュアルイメージング事業やライフサイエンス事業で増益となりました。

事業面以外では、将来に向けた戦略投資を合計で36億円拡大しました。

続いて、セグメント別の業績をご説明します。
スライド7ページをご覧ください。

2023年度：セグメント別業績



単位：億円		2022年度 実績	2023年度 実績	前年同期比		前回予想 (2024.2.9)	前回予想比	
				増減額	増減率		差異	達成率
Industrial Process	売上高	894	821	▲73	▲8.2%	830	▲8	98.9%
	営業利益 (営業利益率)	182 (20.4%)	108 (13.2%)	▲73 (▲7.1P)	▲40.4% -	100 (12.0%)	+8 (+1.2P)	108.8% -
Visual Imaging	売上高	689	805	+116	+16.9%	780	+25	103.2%
	営業利益 (営業利益率)	34 (5.0%)	58 (7.3%)	+24 (+2.3P)	+69.5% -	55 (7.1%)	+3 (+0.3P)	107.0% -
Life Science	売上高	56	52	▲4	▲7.2%	45	+7	115.8%
	営業利益 (営業利益率)	▲51 (▲91.4%)	▲23 (▲44.7%)	+28 (+46.7P)	- -	▲20 (▲44.4%)	▲3 (▲0.2P)	- -
Photonics Solution	売上高	92	102	+9	+10.6%	105	▲2	97.6%
	営業利益 (営業利益率)	▲2 (▲3.2%)	▲15 (▲14.8%)	▲12 (▲11.6P)	- -	▲10 (▲9.5%)	▲5 (▲5.3P)	- -
その他	売上高	17	13	▲4	▲25.5%	20	▲6	65.3%
	営業利益 (営業利益率)	▲3 (▲22.5%)	1 (10.4%)	+5 (+32.9P)	- -	0 (0.0%)	+1 (+10.4P)	- -
連結合計	売上高	1,750	1,794	+43	+2.5%	1,780	+14	100.8%
	営業利益 (営業利益率)	158 (9.1%)	129 (7.2%)	▲28 (▲1.8P)	▲18.2% -	125 (7.0%)	+4 (+0.2P)	103.8% -

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 7

こちらが、セグメント別の結果となります。

前回見直した業績予想に対しては、ライフサイエンス事業とフォトニクスソリューション事業で営業利益が未達となりましたが、その他の事業では想定を上回る着地となりました。

次ページ以降で、セグメント別の詳しい内容についてご説明します。

2023年度：Industrial Process事業



単位：億円	2022年度 実績	2023年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	894	821	▲73	▲8.2%
営業利益	182	108	▲73	▲40.4%
営業利益率	20.4%	13.2%	▲7.1P	-
サブセグメント別売上高				
露光用ランプ	136	140	+4	+3.2%
OA用ランプ	63	55	▲8	▲12.9% ③
光学機器用ランプ	115	102	▲13	▲11.3%
光源事業合計	315	298	▲16	▲5.4%
露光装置	345	329	▲16	▲4.8% ②
光学装置その他	233	193	▲40	▲17.2% ①
光学装置事業合計	579	522	▲56	▲9.8%
Industrial Process事業合計	894	821	▲73	▲8.2%

■売上高：前年同期比 73億円減収

- 需要の減少により液晶パネル向け装置の販売が減少 ①
- 最終需要減速で設備投資が抑制され装置の販売が減少 ②
- 主に前期の特需の反動で販売が減少 ③

■営業利益：前年同期比 73億円減益

- 高付加価値製品の販売減少による利益率の悪化
- 将来に向けた戦略投資(R&D)の拡大

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved

8

インダストリアルプロセス事業は減収減益となりました。
売上高は、8.2%減収の821億円。営業利益は40.4%減益の108億円でした。

減収の主な要因は、巣ごもり需要の一巡や、サーバーやパソコンなどの最終製品の市況悪化により、関連する設備投資の抑制が発生。液晶パネル向け装置や光源及び露光装置の販売が減少しました。

営業利益は、減収による減益に加え、光源や露光装置の付加価値の高い製品の販売が減少したことや、露光装置やEUV光源で将来を見据えた開発投資を拡大したことで、利益率が低下しました。

続いて、ビジュアルイメージング事業について、スライド9ページでご説明します。

2023年度：Visual Imaging事業



単位：億円	2022年度 実績	2023年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	689	805	+116	+16.9%
営業利益	34	58	+24	+69.5%
営業利益率	5.0%	7.3%	+2.3P	-
サブセグメント別売上高				
プロジェクター用ランプ	138	126	▲12	▲8.7% ③
照明用ランプ	36	36	+0	+0.5%
光源事業合計	175	163	▲11	▲6.7%
シネマ	207	313	+105	+50.6% ①
一般映像	305	328	+22	+7.5% ②
映像装置事業合計	513	641	+128	+24.9%
Visual Imaging事業合計	689	805	+116	+16.9%

■売上高：前年同期比 116億円増収

- 部材不足が解消し、置き換え需要を取り込み、DCP販売が増加 ①
- 大型案件の検収(2Q)及び設備投資が堅調に推移し販売が増加 ②
- 一般映像向けプロジェクターの固体光源化でランプ販売が減少 ③
- 円安効果で増収

■営業利益：前年同期比 24億円増益

- 部材価格が正常化し仕入原価が改善
- 一般映像向けハイエンド機種の販売割合増加で利益率が向上
- 高付加価値事業の製品ラインナップ強化に向けた開発投資拡大

ビジュアルイメージング事業は増収増益となりました。
売上高は、16.9%増収の805億円。営業利益は、69.5%増益の58億円でした。

増収の主な要因は、部材不足が解消し、映画館での置き換え需要を取り込むことができたことで、デジタルシネマプロジェクターの販売が増加したこと。また、一般映像分野では、第2四半期で大型案件を検収するなど需要が安定的に推移したことにより、販売が増加しました。
一方、プロジェクター用ランプは、固体光源化が加速し、販売が減少しました。

営業利益は、増収による増益に加え、仕入原価が正常化したこと。また、一般映像向けに利益率の高いRGBレーザープロジェクターの販売割合が増加したことから、利益率の改善が進みました。

続いて、ライフサイエンス事業、フォトニクスソリューション事業について、スライド10ページでご説明します。

2023年度：Life Science事業 /Photonics Solution事業

Life Science事業

単位：億円	2022年度 実績	2023年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	56	52	▲4	▲7.2%
営業利益	▲51	▲23	+28	-
営業利益率	▲91.4%	▲44.7%	+46.7P	-

■売上高：前年同期比 4億円減収

- 環境衛生向け光源の販売が減少

■営業利益：前年同期比 28億円増益

- 前期の棚卸資産評価損の減少及び環境衛生向けに投資を抑制

Photonics Solution事業

単位：億円	2022年度 実績	2023年度 実績	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	92	102	+9	+10.6%
営業利益	▲2	▲15	▲12	-
営業利益率	▲3.2%	▲14.8%	▲11.6P	-

■売上高：前年同期比 9億円増収

- レーザーモジュール等の販売及びM&A効果で増加

■営業利益：前年同期比 12億円減益

- M&Aによる販管費増加及びR&D投資の拡大

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 10

ライフサイエンス事業は減収増益となりました。

売上高は、7.2%減収の52億円。営業利益は28億円改善し23億円の赤字となりました。

減収の主な要因は、環境衛生向け関連製品の販売が減少したこと。

一方、営業利益は、前期に計上した棚卸資産評価損が減少したことや、投資領域の取捨選択による投資抑制効果で、増益となりました。

フォトリソソリューション事業は、増収減益となりました。

売上高は10.6%増収の102億円、営業利益は12億円減益の15億円の赤字となりました。

増収の主な要因は、レーザーモジュールの販売増加やM&A効果により売上が増加したこと。一方、営業利益は、M&Aによる販管費の増加や開発投資拡大により、減益となりました。

以上が、2023年度業績の説明となります。

続いて、次期2024年度の業績予想についてご説明します。

スライド12ページをご覧ください。

I. 2023年度 業績概要

II. 2024年度 通期業績予想

III. 参考資料

2024年度 通期業績予想について

露光装置の販売減少と将来に向けた先行投資拡大で減収減益を見込む（2025年度以降は業績回復を見込む*）

売上高	● 1,750億円（前年同期比 44億円減収） - Industrial Process事業（前年同期比 31億円減収） ・露光装置の販売減少及びEUV光源のメンテナンス収入減少を見込む - Visual Imaging事業（前年同期比 25億円減収） ・一般映像機器で需要堅調も、シネマ分野中心に投資意欲減退や稼働減少影響で減収を見込む
営業利益	● 50億円（前年同期比 79億円減益） - Industrial Process事業（前年同期比 73億円減益） ・減収影響に加え、一時的な露光装置の生産高減少の影響及び先行投資拡大により減益を見込む - Visual Imaging事業（前年同期比 13億円減益） ・減収に伴う減益を見込む
当期純利益	● 45億円*（前年同期比 62億円減益） *2024年度中に一定の政策保有株式などの投資有価証券の売却実行を計画していますが、それに伴う業績への影響については予想に織り込んでおりません
為替前提	● USD : 145円、EUR : 155円 （参考）為替感応度：1円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約10.0億円、営業利益：約1.2億円

*詳細は、新成長戦略を参照ください
https://www.ushio.co.jp/jp/ir/library/brief_note/

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 12

2024年度の通期業績は、減収減益の見通しです。

売上高は、インダストリアルプロセス事業で半導体市況悪化による露光装置の販売が上期中心に落ち込む影響。また、改善傾向であったビジュアルイメージング事業でも、シネマ市場の一時的な停滞の影響による販売減少を見込んでおり、減収となる見通しです。

営業利益は、減収影響に加え、特にインダストリアルプロセス事業で一時的に露光装置の生産高が減少する影響や、次世代露光装置の先行投資を拡大させる計画のため、減益となる見通しです。

詳しい係数は、後程、スライド13ページを参照ください。

なお、2024年度は厳しい事業環境となりますが、2025年度以降は、再び成長拡大を見込んでおり、詳しくは、後程、新成長戦略のなかでご説明します。

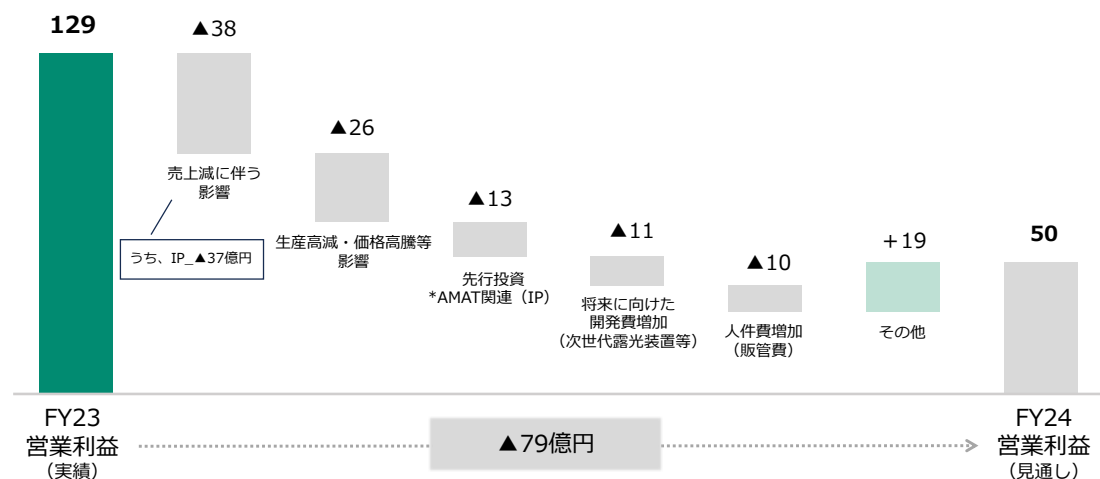
続いて、2024年度の営業利益の減益が79億円となっていますが、その要因について、スライド14ページで詳しくご説明します。

2024年度 通期業績予想：財務ハイライト



単位：億円	2023年度 実績	2024年度 予想	前年同期比	
			増減額	増減率
売上高	1,794	1,750	▲44	▲2.5%
営業利益	129	50	▲79	▲61.5%
営業利益率	7.2%	2.9%	▲4.4P	-
経常利益	160	65	▲95	▲59.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益	107	45	▲62	▲58.3%
EPS（円）	97.22	46.79	▲50.43	▲51.9%
ROE	4.5%	2.0%	▲2.5P	-
年間配当（円）	50	70	+20	-
為替レート（円）	USD	144	+1	-
	EUR	156	▲1	-

(参考) 為替感応度：1円変動による影響額(通期)【対USD】売上高：約10.0億円、営業利益：約1.2億円



* AMAT社：Applied Materials, Inc（アプライド マテリアルズ社）の略称

Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 14

営業利益79億円減益の要因ですが、まず、インダストリアルプロセス事業を中心とした売上高減少による影響で38億円の減益。

また、インダストリアルプロセス事業における一時的な生産高の減少による稼働低下や、材料・エネルギー価格高騰による原価高騰などの影響で26億円の減益。

更に、アプライドマテリアルズ社との業務提携による将来の事業拡大に向けた先行投資で13億円の減益。

これには、生産体制構築に伴う設備投資約30億円強による減価償却費などが含まれます。

また、次世代露光装置等への開発投資で11億円の減益と、インダストリアルプロセス事業に起因する影響で減益幅が大きくなっています。

加えて、日本や北米を中心とした賃金のベースアップなどによる人件費の増加で10億円の減益。

一方、「その他」19億円の増益には、経営効率化による経費削減や前期に計上した固定資産の減損による減価償却費の減少を含みます。

このように2024年度は減益幅が大きくなっていますが、2025年度以降は再び露光装置や半導体製造プロセス向け製品の売上増加を見込んでおり、一時的な生産高減少による影響も改善していく計画となっています。

続いて、セグメント別の業績予想について、簡単にポイントのみご説明します。

スライド15ページをご覧ください。

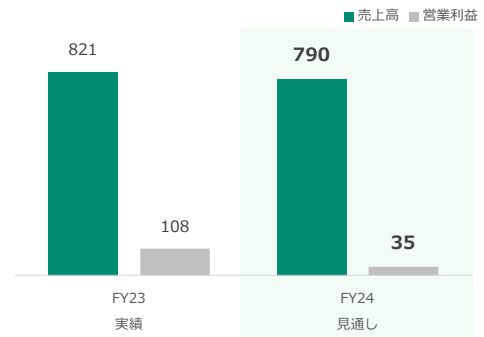
2024年度 通期業績予想：セグメント別業績



単位：億円		2023年度 実績	2024年度 予想	前年同期比	
				増減額	増減率
Industrial Process	売上高	821	790	▲31	▲3.8%
	営業利益 (営業利益率)	108 (13.2%)	35 (4.4%)	▲73 (▲8.8P)	▲67.8% -
Visual Imaging	売上高	805	780	▲25	▲3.1%
	営業利益 (営業利益率)	58 (7.3%)	45 (5.8%)	▲13 (▲1.5P)	▲23.6% -
Life Science	売上高	52	50	▲2	▲4.1%
	営業利益 (営業利益率)	▲23 (▲44.7%)	▲20 (▲40.0%)	+3 (+4.7P)	- -
Photonics Solution	売上高	102	115	+12	+12.3%
	営業利益 (営業利益率)	▲15 (▲14.8%)	▲10 (▲8.7%)	+5 (+6.1P)	- -
その他	売上高	13	15	+1	+14.9%
	営業利益 (営業利益率)	1 (10.4%)	0 (0.0%)	▲1 (▲10.4P)	- -
連結合計	売上高	1,794	1,750	▲44	▲2.5%
	営業利益 (営業利益率)	129 (7.2%)	50 (2.9%)	▲79 (▲4.4P)	▲61.5% -

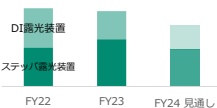
Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 15

2024年度のセグメント別業績予想は、掲載の通りです。
セグメント別予想の詳細について、次ページ以降で説明します。

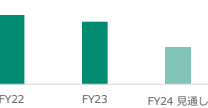


【参考情報（売上高推移）】

半導体アドバンスドパッケージ向け
露光装置



EUVリソグラフィマスク検査用
EUV光源



■ 事業環境想定

低調な需要が継続も、徐々に回復の兆しが見えつつある

- 半導体市場は、2024年後半から徐々に回復を見込む
- 半導体アドバンスドパッケージ市場は、投資低調が続くも、2025年以降は生成AI関連投資に牽引され徐々に回復し需要拡大の見込み
- FPD市場は、需要の底は脱するも低調な需要の継続を見込む

■ 売上高 : 前年同期比 31億円減収

- 露光用ランプは、徐々に稼働が回復し増収を見込む
- 露光装置は、投資先送りの影響で減収を見込む
- EUVマスク検査用光源は、メンテナンス収入の減少を見込む

■ 営業利益 : 前年同期比 73億円減益

- 将来の成長に必要な先行投資(開発投資)を拡大
→ デジタルリソグラフィ装置*を含む次世代露光装置、EUV光源等
- 露光装置で一時的な生産高の減少に伴う稼働率低下による損失を見込む

*アプライドマテリアルズ社との業務提携によるDLT(デジタルリソグラフィ技術)搭載のDI露光装置のこと

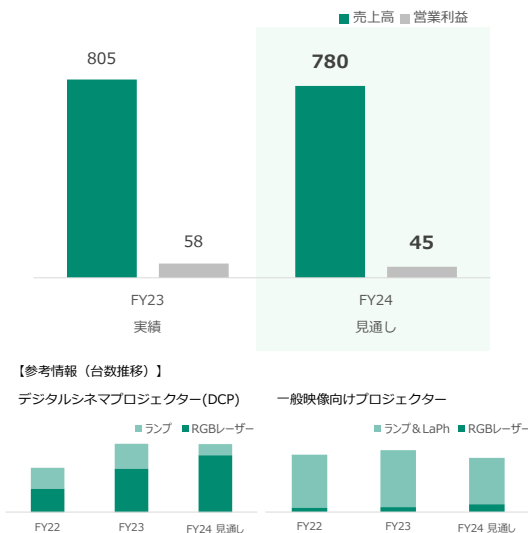
Copyright © 2024 Ushio Inc., All Rights Reserved 16

インダストリアルプロセス事業ですが、前年同期比で減収減益となる見通しです。

半導体市況は回復の兆しが見えつつあるも、2024年後半より徐々に回復すると見込んでいます。そのため、半導体アドバンスドパッケージ関連の露光装置販売は、投資先送り影響もあり、上期中心に販売が減少し、下期から徐々に回復するも上期の落ち込みをカバーできない見込みです。また、EUV光源は、稼働の減少により、メンテナンス収入の減少を見込んでいます。

利益面では、減収影響に加え、露光装置の一時的な生産高の減少に伴う稼働率低下による損失。また、半導体アドバンスドパッケージ市場の将来の成長を見据えた先行投資を拡大する影響を見込んでいます。

続いて、ビジュアルイメージング事業についてご説明します。



■事業環境想定

需要は堅調も、中国経済悪化やストライキ影響を注視

シネマ市場

- ハリウッドストライキの影響で映画館の一時的な稼働減を想定
- DCP置き換えニーズはあるものの、投資意欲は低調な見込み

一般映像市場

- 大規模演出や最先端の映像演出ニーズの高まりにより需要は堅調も、中国経済悪化の影響は注視

■売上高：前年同期比 25億円減収

- シネマ(映像装置)は、設備投資意欲の減退により減収を見込む
- 一般映像機器は、堅調な需要により増収を見込む
- プロジェクター用ランプは、映画館の稼働減少影響や固体光源化で減収を見込む

■営業利益：前年同期比 13億円減益

- 減収に伴う減益
- プロジェクター用ランプで原材料高による影響を見込む

ビジュアルイメージング事業についても、前年同期比で減収減益となる見通しです。

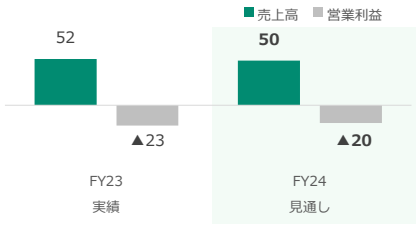
シネマ市場は、映画館のデジタルシネマプロジェクター置き換えニーズはあるものの、ハリウッドストライキに起因するコンテンツ不足影響で、一時的な稼働減少や投資意欲減退による販売減少により、光源及び映像機器ともに減収を見込んでいます。

一方、一般映像市場は、高度な映像演出ニーズの高まりにより需要は堅調に推移することから増収を見込んでいますが、中国経済悪化の影響は引き続き注視が必要です。

プロジェクター用ランプは、映画館の稼働減少に加え、固体光源化の影響による販売減少のほか、原材料費の高騰による利益への影響を見込んでいます。

続いて、ライフサイエンス事業、フォトニクスソリューション事業についてご説明します。

Life Science事業



■ 事業環境想定

メディカル機器等で安定的な需要が継続

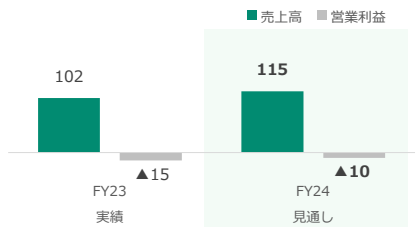
■ 売上高 : 前年同期比 2億円減収

- 環境衛生向け及びメディカル機器で横ばいを見込む

■ 営業利益 : 前年同期比 3億円増益

- 新規事業案件の絞り込み等を進めるとともに販管費等の抑制継続

Photonics Solution事業



■ 事業環境想定

産業用途でエネルギー効率向上ニーズ等によるフォトニクス需要が継続

■ 売上高 : 前年同期比 12億円増収

- 半導体や産業用センサー市場などで販売増加を見込む

■ 営業利益 : 前年同期比 5億円増益

- 増収に加え、開発投資の絞り込みにより増益を見込む

ライフサイエンス事業は、需要が概ね横ばいで推移する見通しです。また、案件の絞り込み等による販管費等の抑制を行うことで増益となる見込みです。

フォトニクスソリューション事業は、半導体や産業用センサー市場などで需要が継続し増収を見込んでいます。また、投資案件の絞り込みを進め利益の改善を進めます。

なお、セグメント別の中長期戦略方針については、「中期経営計画の再検証結果」のパートでご説明します。

最後に、株主還元についてご説明します。
スライド19ページをご覧ください。

1株当たり
期末配当額

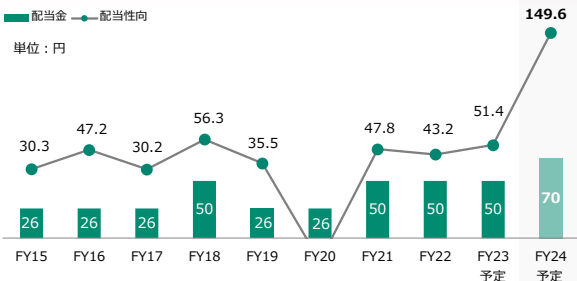
【配当方針】

安定的な配当

FY24～FY26: 下限配当70円/年を設定

2023年度 50円/年 (予定)
2024年度 70円/年 (増配予定)

■ 配当金 ● 配当性向
単位：円



自社株投資

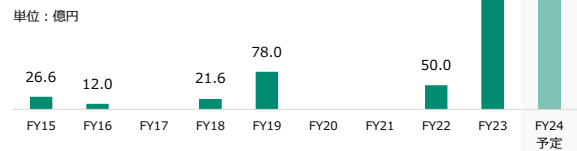
【自己株式取得の方針】

機動的に実施

FY24～FY26: 累計500～600億円の自社株投資を実施予定

2024年5月14日リリース
取得期間：2024年5月24日～ 2025年4月30日
買付予定金額： 300億円(上限)
買付予定株数： 2,000万株(上限)

単位：億円



1株当たり配当は、2023年度は計画通り50円を予定しています。また、来期2024年度以降は、新たな成長戦略のもと、1株当たり70円の下限配当を設定する予定です。

また、自社株投資については、資本効率改善に向け、前期に続き上限300億円の実施を本日公表しています。詳しい内容はリリースをご覧ください。

以上で、2023年度業績及び2024年度業績予想の説明を終わります。

I. 2023年度 業績概要

II. 2024年度 通期業績予想

III. 参考資料

事業セグメントと主な製品



事業セグメント	主要事業・製品	製品例					
Industrial Process	光源： 露光用ランプ、OA用ランプ、光学機器用ランプ他 装置： 露光装置、キュア装置、EUVマスク検査用光源、保守メンテナンスサービス他	 露光用ランプ	 OA用ランプ	 投影露光装置	 ダイレクト イメージング露光装置	 (提供：TNO) EUVマスク検査用 EUV光源	
Visual Imaging	光源： シネマ用ランプ、データプロジェクター用ランプ他 装置： デジタルシネマプロジェクター、一般映像向けプロジェクター、映像関連機器、保守メンテナンスサービス他	 シネマ用 ランプ	 データ プロジェクター用 ランプ	 デジタルシネマ プロジェクター	 一般映像用 プロジェクター	 ディスプレイ LEDウォール	 映像周辺機器
Life Science	光源：「Care222®」搭載製品 装置：紫外線治療機器他	 抗ウイルス・除菌技術 「Care222®」搭載製品	 紫外線治療機器 「セラビームシリーズ」				
Photonics Solution	光源：固体光源	 固体光源（LD/LED）	 レーザーモジュール				

四半期推移《損益》



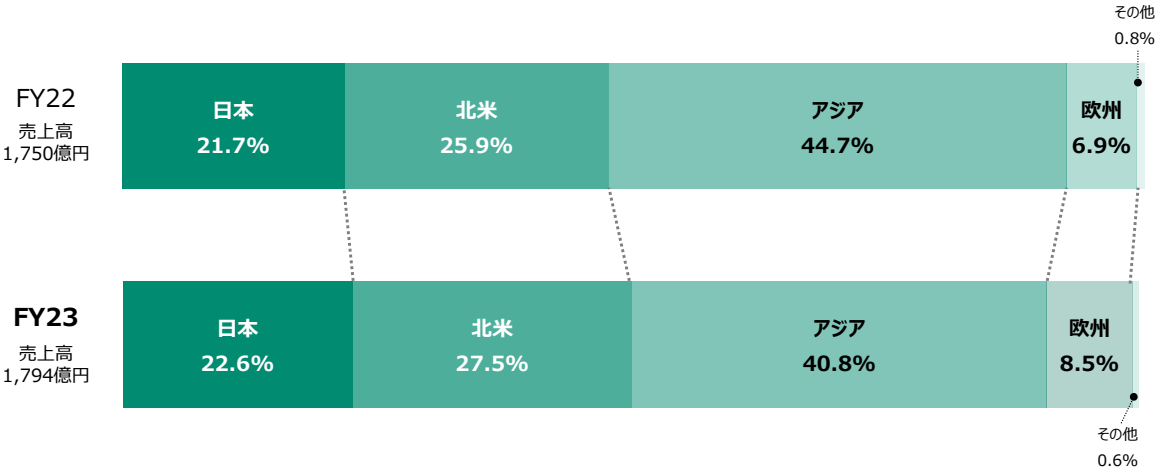
単位：億円	2022年度				2023年度				前年同期比	
	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	増減額	増減率
売上高	397	482	404	466	392	457	475	469	+ 2	+ 0.5%
営業利益	44	56	34	23	20	29	52	27	+ 4	+ 18.7%
営業利益率	11.3%	11.7%	8.5%	5.0%	5.2%	6.4%	11.0%	5.9%	+ 0.9P	-
経常利益	62	73	43	21	28	34	63	34	+ 13	+ 64.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	38	56	25	16	17	24	44	20	+ 4	+ 29.1%
EPS(円)	32.18	47.87	21.80	13.78	15.36	21.65	40.72	20.06	+ 6.28	+ 45.6%
為替レート (円)	USD	127	137	144	133	136	144	149	+ 14	-
	EUR	137	140	144	143	148	158	159	+ 18	-

四半期推移《セグメント別損益》

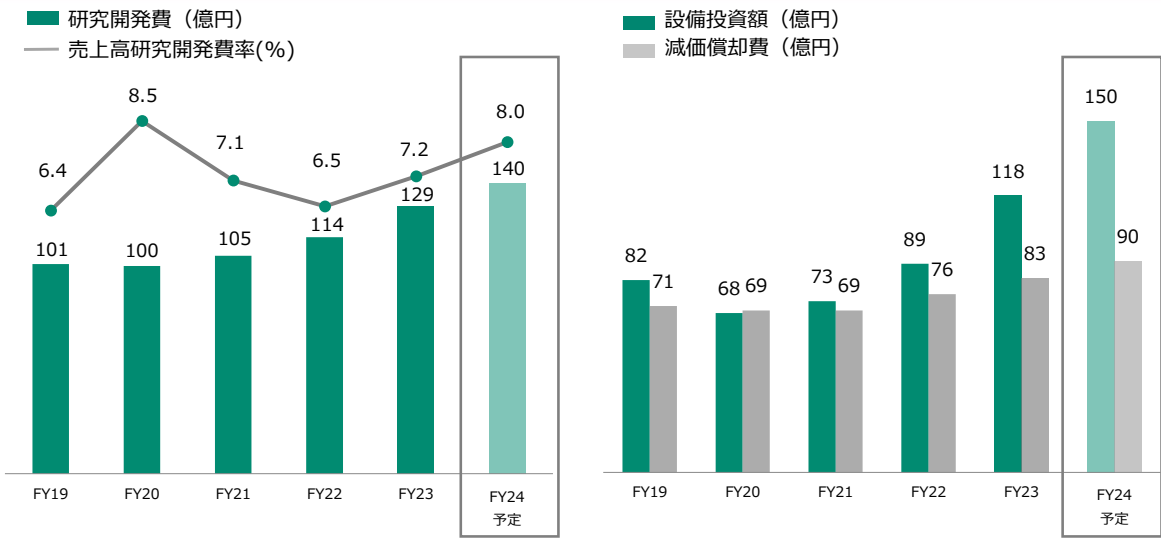


		2022年度				2023年度				前年同期比	
		1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	1 Q	2 Q	3 Q	4 Q	増減額	増減率
Industrial Process	売上高	198	275	193	228	174	203	225	217	▲10	▲4.6%
	営業利益	39	69	41	31	22	17	40	28	▲3	▲11.0%
	営業利益率	19.8%	25.4%	21.4%	14.0%	12.9%	8.4%	18.1%	13.1%	▲1.0P	-
Visual Imaging	売上高	155	166	174	192	176	212	203	212	+20	+10.5%
	営業利益	12	8	6	7	6	23	15	12	+5	+66.9%
	営業利益率	7.8%	5.2%	3.6%	4.0%	3.5%	11.2%	7.8%	6.1%	+2.0P	-
Life Science	売上高	14	13	12	15	13	13	13	11	▲3	▲24.1%
	営業利益	▲6	▲21	▲11	▲11	▲4	▲7	▲4	▲6	+4	-
	営業利益率	▲47.5%	▲158.3%	▲93.3%	▲73.0%	▲32.7%	▲57.1%	▲36.1%	▲54.6%	+18.4P	-
Photonics Solution	売上高	23	23	20	25	25	25	28	23	▲2	▲8.8%
	営業利益	1	▲0	▲1	▲1	▲3	▲3	▲1	▲6	▲4	-
	営業利益率	6.1%	▲3.0%	▲9.1%	▲7.1%	▲12.9%	▲14.9%	▲5.0%	▲28.9%	▲21.8P	-
その他	売上高	4	4	3	4	2	3	3	3	▲1	▲26.6%
	営業利益	▲1	▲0	▲0	▲2	▲0	▲0	1	0	+3	-
	営業利益率	▲26.5%	▲3.5%	▲6.1%	▲47.5%	▲22.9%	▲16.7%	51.7%	23.5%	+71.0P	-
連結合計	売上高	397	482	404	466	392	457	475	469	+2	+0.5%
	営業利益	44	56	34	23	20	29	52	27	+4	+18.7%
	営業利益率	11.3%	11.7%	8.5%	5.0%	5.2%	6.4%	11.0%	5.9%	+0.9P	-

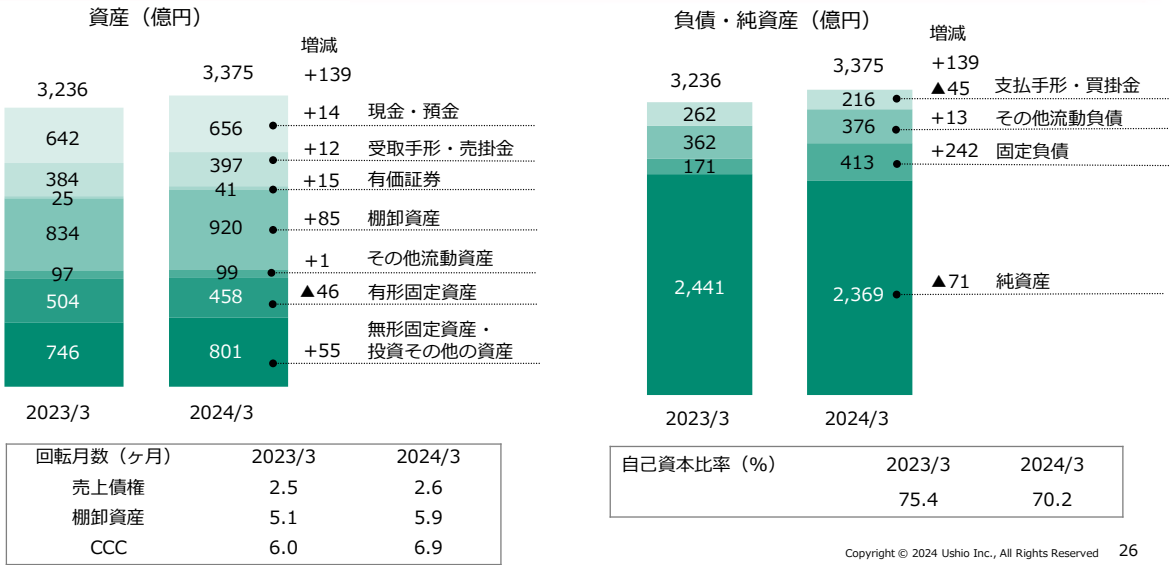
地域別売上高比率



研究開発費／設備投資額・減価償却費



貸借対照表



負債・純資産（億円）

3,236

262

362

171

2,441

2023/3

3,375

216

376

413

2,369

2024/3

増減

+139

▲45

+13

+242

▲71

支払手形・買掛金

その他流動負債

固定負債

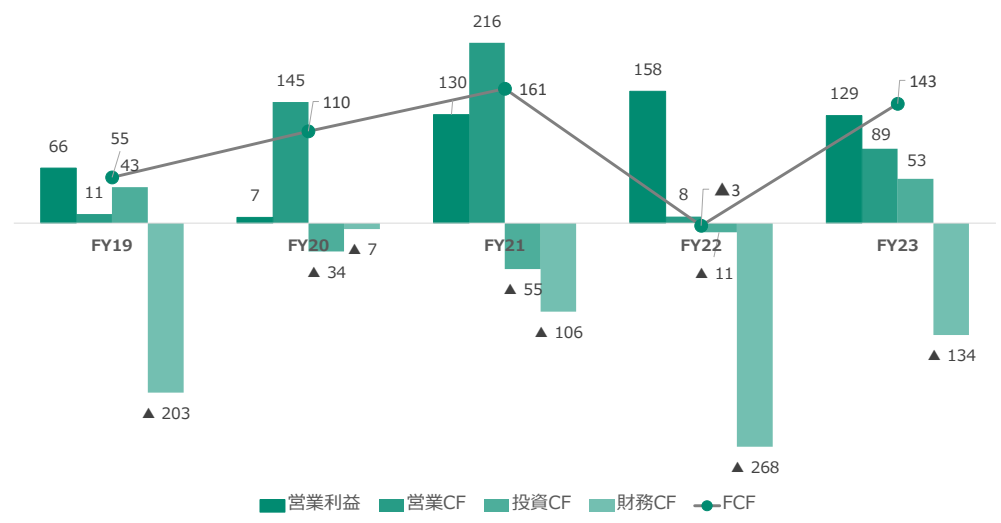
純資産

回転月数（ヶ月）	2023/3	2024/3
売上債権	2.5	2.6
棚卸資産	5.1	5.9
CCC	6.0	6.9

自己資本比率（％）	2023/3	2024/3
	75.4	70.2

キャッシュフロー推移

単位：億円



AI	Artificial Intelligence	人工知能
APMI	Actinic Patterned Mask Defect Inspection	EUV光を使ったマスク欠陥検査装置
BGA	Ball Grid Array	半田ボールを格子状に並べた電極形状をもったパッケージ基板
CoO	Cost of Ownership	導入コストやメンテナンスコストなどを含めた、使用者（オーナー）が負担するコスト
CPU	Central Processing Unite	中央演算処理装置
DCP	Digital Cinema Projector	デジタル・シネマ・プロジェクター
DI	Direct Imaging	マスクを使わず、直接描画する露光方式
EUV	Extreme Ultraviolet Radiation	極端紫外放射（極紫外放射）
FPD	Flat Panel Display	フラット・パネル・ディスプレイ
GPU	Graphic Processing Unit	画像を表示するために必要な計算を行う半導体装置
IoT	Internet of Things	モノがインターネット経由で通信すること
OA	Office Automation	オフィス内の事務作業の自動化や効率化を図ること
TNO	The Netherlands Organization of Applied Scientific Research	オランダ応用科学研究機構
UV	Ultraviolet	紫外線
5G	5 th Generation	第5世代移動通信システム

IRサイト及びIRメール配信サービスのお知らせ

- 当社オフィシャルWebサイト「投資家情報」をリニューアルしました。よりアクセスしやすく、ウシオの現在～未来を知っていただけるような構成に整理しました。
- 法定開示や適時開示、その他IR情報等、ウシオのIRニュースを開示後適時にメールでお届けできるように**IRメール配信サービス**を導入しました。IRサイトからご登録いただきますようお願いいたします。

Revised Point

01

個人投資家の皆さま向けコーナーを新設
シンプルでわかりやすさを意識した構成に
することで、利便性の向上を図りました。



Revised Point

02

コンテンツの新設
当社のビジネスをより身近に感じて
いただけるコンテンツを充実しました。



Revised Point

03

IRメール配信登録機能を追加
個人投資家の皆さまにも料ニュースを受け取り
お知らせできるよう機能を追加しました。



IRメール配信登録は
こちらから



「大和インターネットIR表彰 2023」
「優秀賞」受賞



<免責事項>

本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞

ウシオ電機株式会社

IR室

(03) 5657-1007

ir@ushio.co.jp

<http://www.ushio.co.jp/jp/ir>